

発刊にあたって

『Museologist（博物館人）』を発刊することになりました。

倉田 公裕

情報過多といわれる現代ですが、「博物館学」に関しては、情報の量も少なく、出版物も誠に僅かです。若い研究者や学芸員の優れた博物館学的調査・研究があっても、発表できる機会を与えられていません。

大学や博物館で、努力し苦労されたことが埋れてしまい、学問的に集積されないように思います。

某県立博物館の館報を見ますと、博物館学などというが、あれは学ではなく、単なる技術であり、しいて学というならば、展示の哲学に止ると、広言している館長がおられます。

また、学芸員になるために、博物館学を勉強しても、現業に勤めると日常の業務や特定科学の研究に追われ、博物館学的考察を放棄する（あるいは、させられる）人々も目撃します。どう考えようと個人の自由ではあるでしょうが、博物館として本当にそれで良いのでしょうか。

博物館学は、学問としてその歴史は浅く、学的集積も薄く探求が足りないからとも言えるでしょうか。しかし、より良い博物館活動を行ないその役割を果たすには「博物館とは何か」という、その本質と限界を自問自省する、科学的省察が不可欠であろうと思います。いまだに、こんなことを言うのは、情ない様にも思いますが、それほど学として、まだまだ浅薄なものと反省しなければならないと痛感します。

これは誠にさゝやかな小誌ですが、その「思いは高く」、些かでも博物館学の振興・探求に寄与できればと思うものです。

皆様方の御支援、御協力を得て努力していきたいと存じます。